

マンホールポンプ設備

老朽化・健全度を評価

新明和

的に自動評価できる。

クラウドサービスは人工知能（AI）で故障予測する予知保全の機能も備えている。評価サービスはさらに、自治体の限られた予算やマンホールポンプ設備の管理計画において、機器を更新する適切な順番などの決定までサポートする。

同設備の監視は大手の機械や電機メーカーも手がけるが異常や故障の検知が中心で、予知保全や更新計画の支援は少ない。新明和は異常や故障が起きる前に設備更新を促す差別化技術で、自治体からの受注を増やす。

新明和工業は下水処理のマンホールポンプ設備の老朽化リスクや健全度を評価し、自治体に提供するサービスを8月1日に始める。同設備は技能者の減少や財政難から保守が難しくなっている。同設備の製造と遠隔監視を手がける技術を生かし、設備を構成する機器を適切な優先順などで更新できるよう支援する。遠隔監視事業に評価サービスを付加し、長期的に900自治体からの採用を目指す。

予知保全
更新支援
自治体向け、あすから

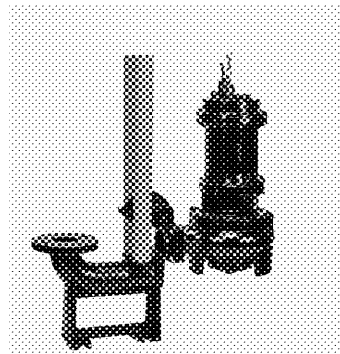
新サービスの対象は、マンホール地下で下水を圧送するポンプ設備で、勾配などで自然に流れない箇所へ設置されている。

新明和工業は2020年に設備の電気システムや水位をクラウドサービスで遠隔監視する事業を開始しており、約200の自治体がマン

ホールポンプ設備で採用している。今回の評価サービスは同事業に追加するもので、設備の機器を更新する際の判断材料

となる。追加料金は無料。

マンホールポンプ設備の機器を更新する判断基準として準拠するのは、日本下水道新技術機構の標準的な更新計画資料。機器情報や点検・修繕記録、稼働情報などと資料を照合し、機器を更新する優先順の参考になる経年リスクと健全度を総合



新明和工業の設備用水中ポンプ（CNWX）